

株式会社タムラ製作所

2011年3月期 第2四半期決算概要 補足説明資料

2010年11月11日



1. 2011年3月期第2四半期決算概要
2. 2011年3月期 通期業績予想

1. 2011年3月期第2四半期決算概要

ハイライト(要約損益計算書)



需要回復で売上増収、営業利益は黒字を維持
但し、急激な為替変動などで
経常損益以下は厳しい状況が継続

10上 期中平均実績為替レート: \$1= 87円 91銭
10上 期中平均社内為替レート: \$1= 89円 18銭
10上 期末日実績為替レート: \$1= 83円 82銭

【百万円】

	09上	09下	10上	前年同期 増減
売上高	31,362	32,219	35,581	4,219
営業損益	△887	1,116	594	1,481
営業外損益	△283	△249	△955	△672
経常損益	△1,170	867	△360	810
特別損益	△339	△374	△104	235
税引前利益	△1,508	492	△464	1,044
当期純損益	△1,424	△908	△577	847

為替差損額
700百万円

為替の影響分析



1円の円高で70百万円程度の損失

- ①原則同一通貨取引なので外貨建て売掛金・買掛金等の評価替えによる影響は少ない。
- ②海外支店の本社勘定及び子会社に対する外貨貸付金等の評価差損益の影響を受ける。

【第2四半期決算における為替差損】

内訳 当社単独 : 586百万円 (海外支店計416百万円)

当社単独の内訳

香港支店評価替え : 330百万円

シンガポール支店評価替え : 86百万円

貸付金評価替え等 : 170百万円

小計 : 586百万円

子会社 : 114百万円

700百万円

10/3末 1US\$ = 93.04円

9.22円の円高

10/9末 1US\$ = 83.82円

※従来、先物為替予約でヘッジしてきたが、急激な円高で対応出来なかった。

対象リスク	内容	従来のヘッジ方法	当期の結果	今後のヘッジ方針
外貨建て取引 (売上・仕入取引)	社内レート (毎月見直し)で計上	売上と仕入の 通貨同一化	○ 為替差損益の極小化	従来通り
海外支店残高	全て外貨建て 本社勘定(資産-負債)	期中に為替差損のない タイミングで為替先物予約 (前期末レートによる先 物レート予約)	× 10/4末 ギリシャ危機以来、 予約機会喪失	①期末日翌日～15日に分割して為替先物予約実行 (下期の予約リスクヘッジは済) ②統合の一環として、支店の廃止
外貨建て資産残高	外貨建て貸付金等			

営業損益の増減分析

09下実績
1,116百万円

売上増に伴う（対予想1,581百万円増）
売上利益増加 約400百万円

10上予想
700百万円

売上増に伴う
販管費増加
約350百万円

10上実績
594百万円

製品原価悪化
対予想
約150百万円増

【予想・実績差分要因】

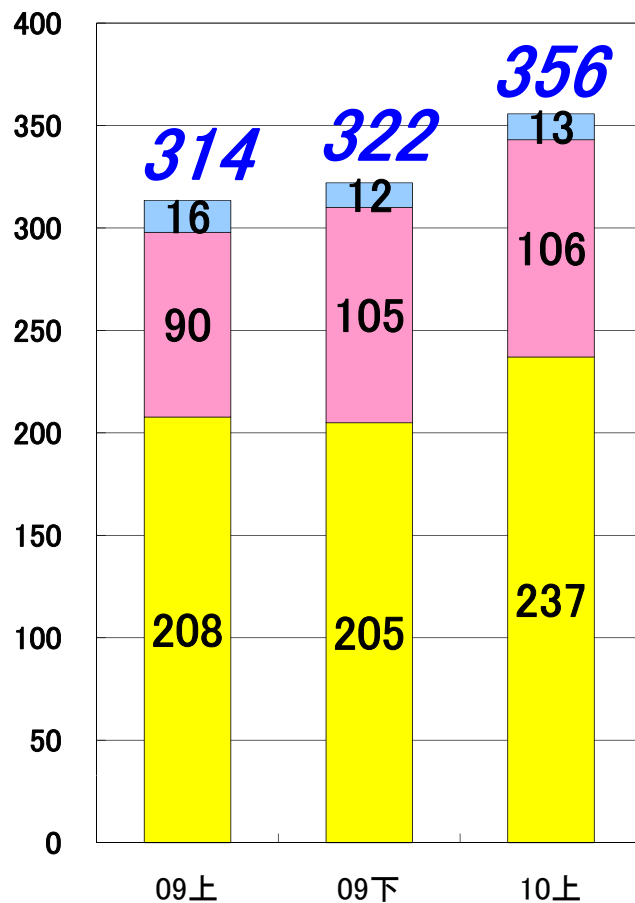
主要因は、製品原価の悪化

- ・原材料高騰、円高進行による影響
- ・製造労務費増加（労賃上昇、残業増加など）
- ・製造経費増加（諸経費増加など）

電子部品、電子化学実装関連は堅調に推移
情報機器関連は引き続き投資抑制などによる厳しい事業環境継続

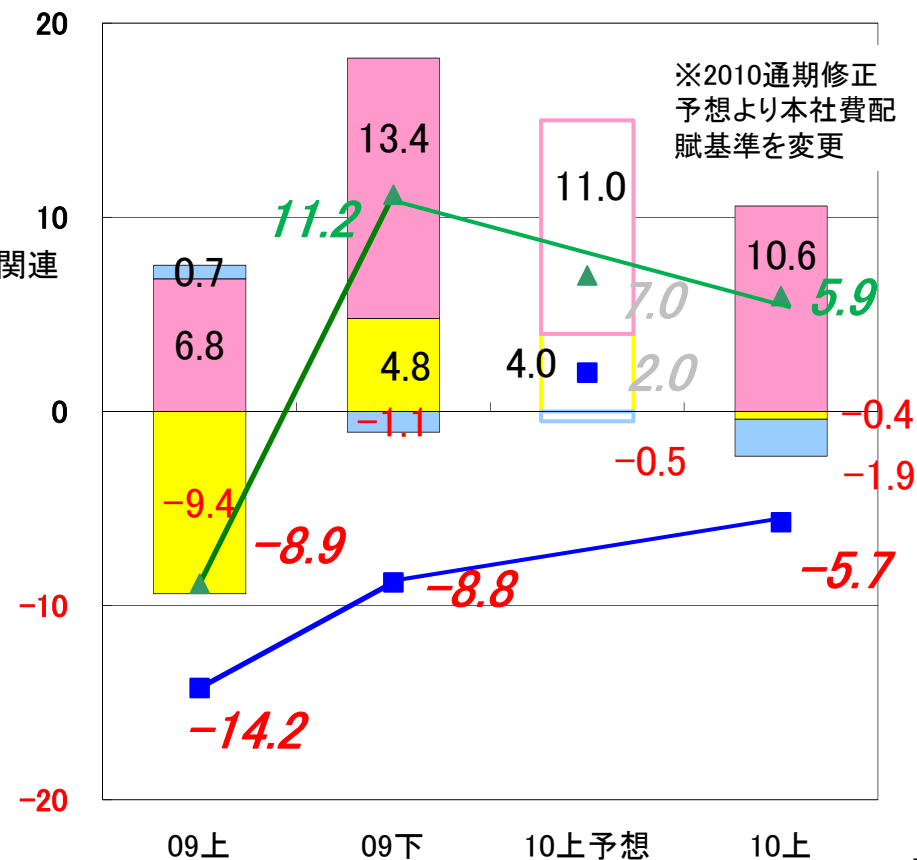
売上高

【億円】

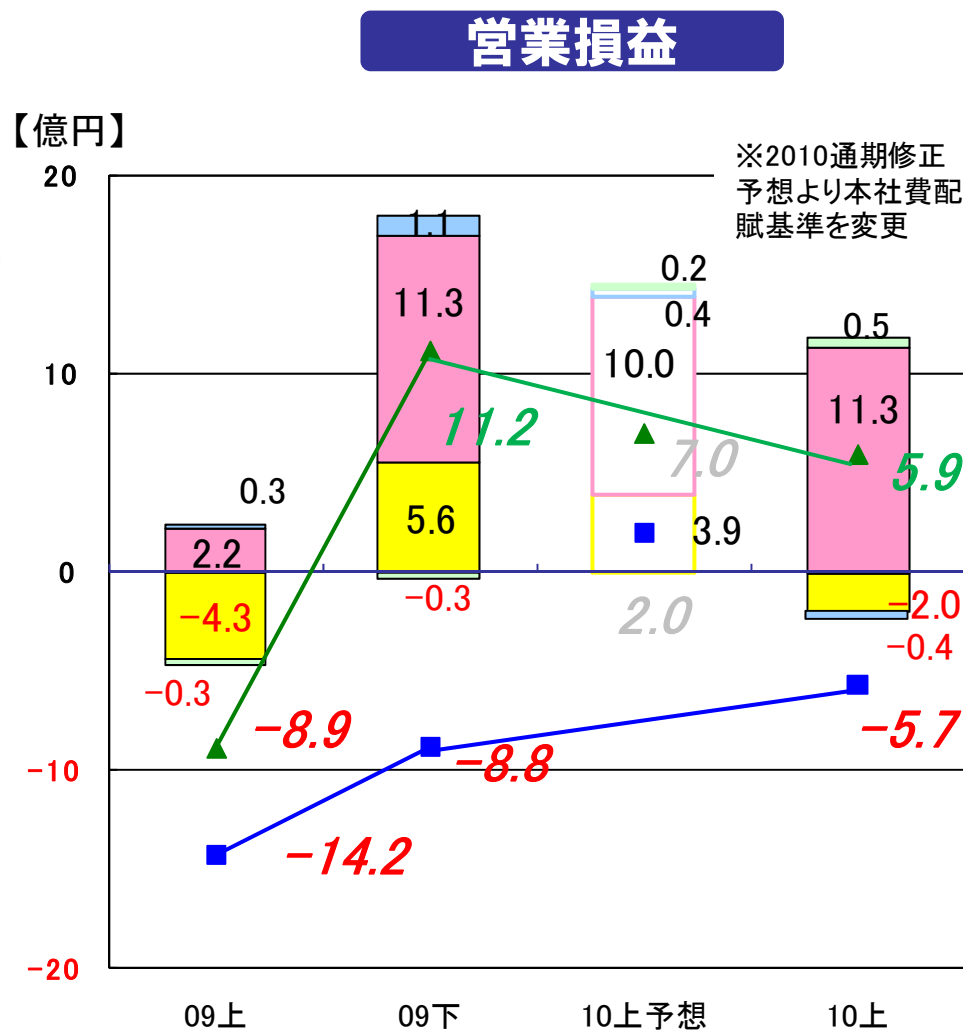
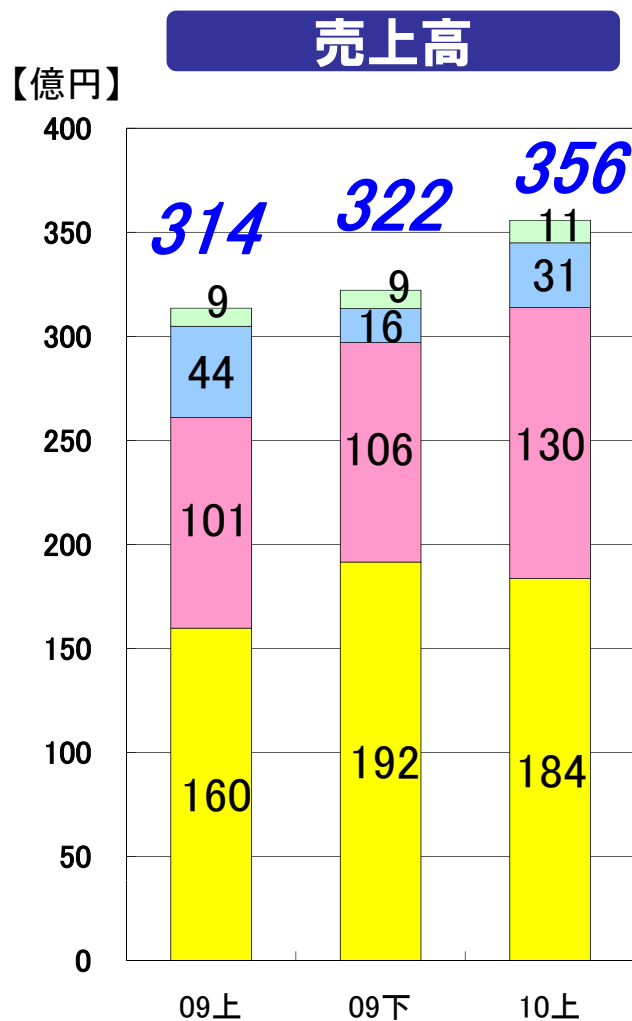


営業損益

【億円】



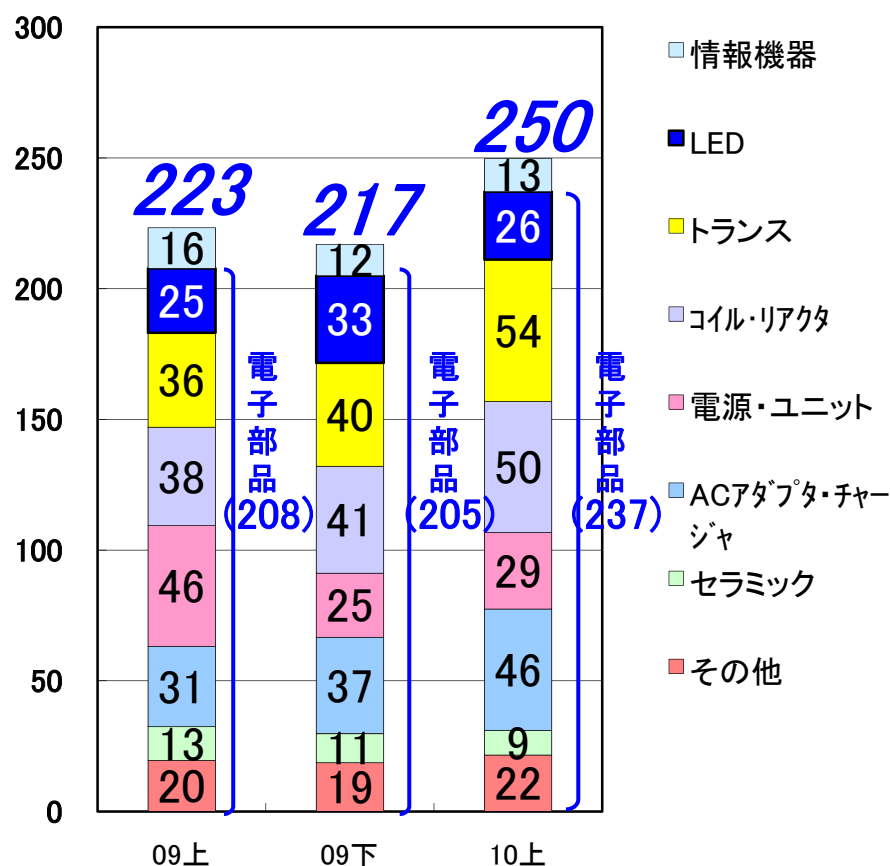
アジア地域がデジタル機器関連の需要増、
産業機械関連における輸出増加を背景に売上・利益が堅調に回復



電子部品：AV関連製品から産業機械向け製品など全般的に堅調
 情報機器：放送機器市場を中心に厳しい市場環境が継続し、横ばい

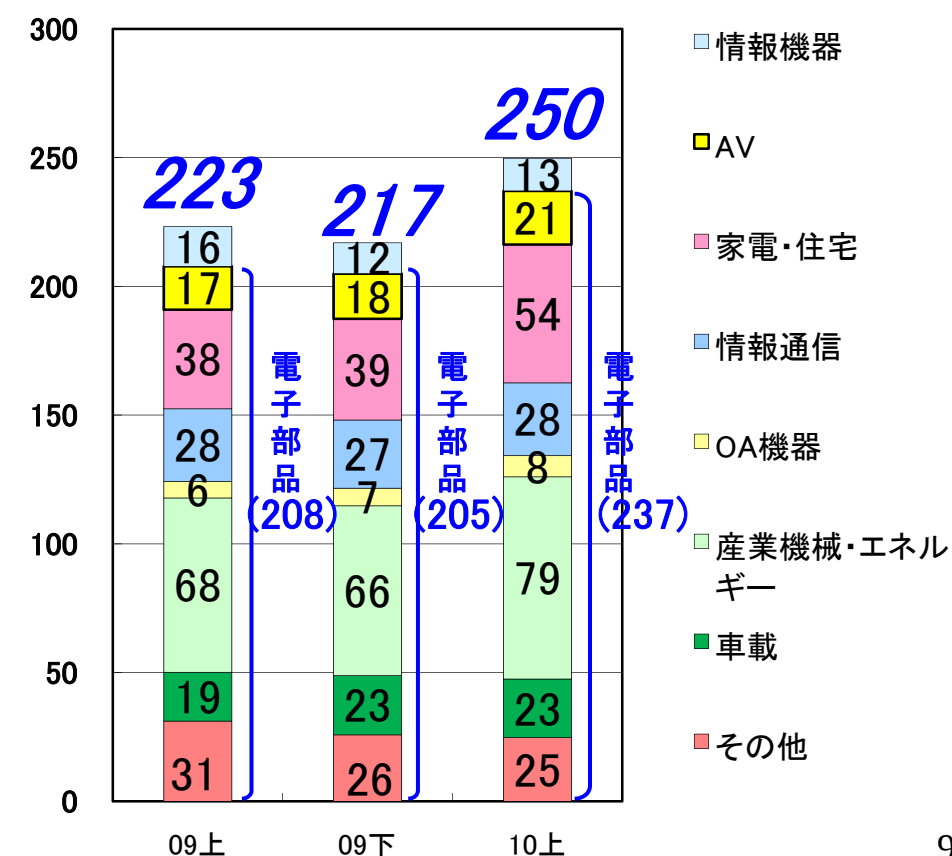
製品別 売上高

【億円】



市場別 売上高

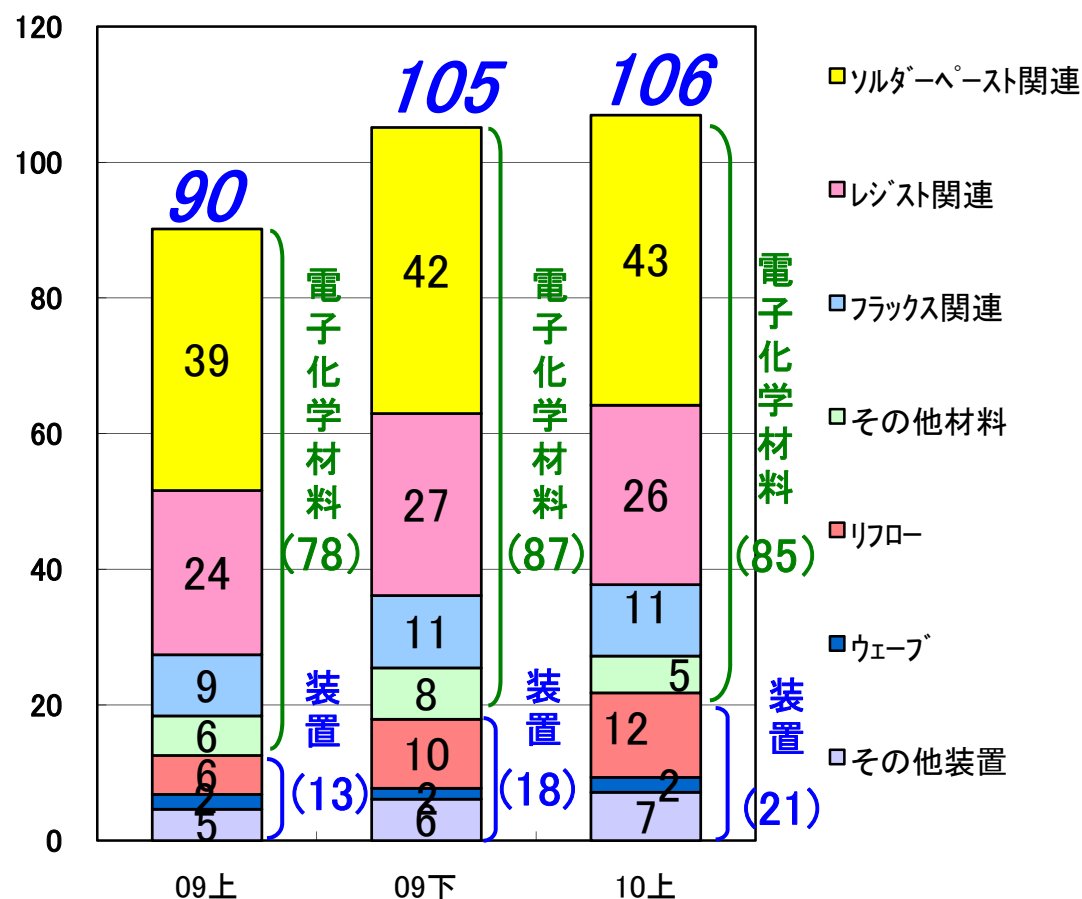
【億円】



デジタル機器や自動車関連などの各市場での生産増加を背景に
電子化学事業は堅調、実装装置事業は回復が進行

製品別 売上高

【億円】



◆はんだ付装置売上回復



アジア地域を中心に拡販展開

◆新色追加のレジストに 注目集まる



PAF300シリーズ

フレキシブル基板向けソルダーレジスト

8色をラインナップ完了し市場投入開始

ハイライト(要約貸借対照表)



総資産は微増(現預金減少・売上債権・棚卸資産・仕入債務増加)
純資産は減少(最終損失・配当支払)

【百万円】

	09上	09下	10上	対09下
流動資産	50,966	51,055	52,073	※1 1,018
(現預金)	21,974	22,230	19,568	※1 △2,662
(売上債権)	16,807	17,905	19,286	※1 1,381
(棚卸資産)	9,439	8,424	11,009	2,673
(その他流動資産)	2,746	2,496	2,120	△374
固定資産	24,070	21,829	21,554	△275
(有形固定資産)	18,134	17,118	16,565	△553
(無形固定資産)	1,327	1,086	1,652	566
(投資、その他)	4,607	3,623	3,335	△288
資産合計	75,036	72,885	73,627	742

(参考)連結会社の増加

- ・ROMARSH: 買収
- ・田村精工電子(常熟): 重要性増加

※1売上拡大による増減

※2長期借入金30億円→短期借入金

※3主に純損失(△577)、
配当支払(△261)

流動負債	18,714	22,433	27,784	5,351
(仕入債務)	9,452	10,687	13,174	※2 2,487
固定負債	25,352	20,702	17,539	※1 △3,162
(有利子負債)	26,998	25,230	25,305	※2 75
負債計	44,067	43,135	45,324	2,189
純資産合計	30,969	29,749	28,303	※3 △1,445
負債・純資産合計	75,036	72,885	73,627	742

ハイライト(キャッシュフロー)



営業CF 売上増加による一時的なCFマイナス

投資CF 英国ROMARSH社を買収(9億円弱)→今後の収益源

財務CF 主に配当支払によるCFマイナス

【百万円】

	09上	09下	10上	10上コメント
営業活動による キャッシュフロー	528	1,955	△577	業務拡大による 売上債権増、在庫増 仕入債務増が主因
投資活動による キャッシュフロー	△ 485	136	△1,583	英国ROMARSH社買収△870 設備投資△652
フリーキャッシュ フロー	43	2,091	△2,160	
財務活動による キャッシュフロー	3,580	△1,738	△463	配当支払△261 リース債務支払△168
キャッシュの増減	3,702	407	△2,914	
キャッシュの残高	21,609	22,017	19,246	

注)財務CF リーマンショック後の追加借入資金を10下に返済済み(40億円)

2. 2011年3月期 通期業績予想

ハイライト(損益予想)



不透明な市場環境、円高や素材価格の高騰もある中、
更なる収益性の向上・安定化に取り組み、下期での完全黒字化へ

損益予想

10下期 予想為替レート \$1= 85円

【百万円】

	09 通期 実績	10 上期 実績	10 下期 予想	10 通期 修正予想	対前年 増減	参考： 10通期 期首予想
売上高	63,581	35,581	37,419	73,000	9,419	72,000
営業損益	229	594	1,306	1,900	1,671	2,100
経常損益	△303	△360	1,060	700	1,003	1,600
当期純損益	△2,332	△577	777	200	2,532	700

営業損益の増減分析(下期予想前提)

原価低減による

売上利益増加 約600百万円

①原材料高騰の抑止

(ハッジ活用、売価への還元)

②労務費の効率化

③製造経費の低減

④高付加価値製品の拡大

販管費増加 約400百万円

①売上増加に伴う経費増加

②開発費・償却の増加

1,306百万円

販管費圧縮 約50百万円

①労務費の効率化

②運賃などの経費低減

594百万円

売上増に伴う

(対上実績1,838百万円増)

売上利益増加 約450百万円

10上実績

10下予想

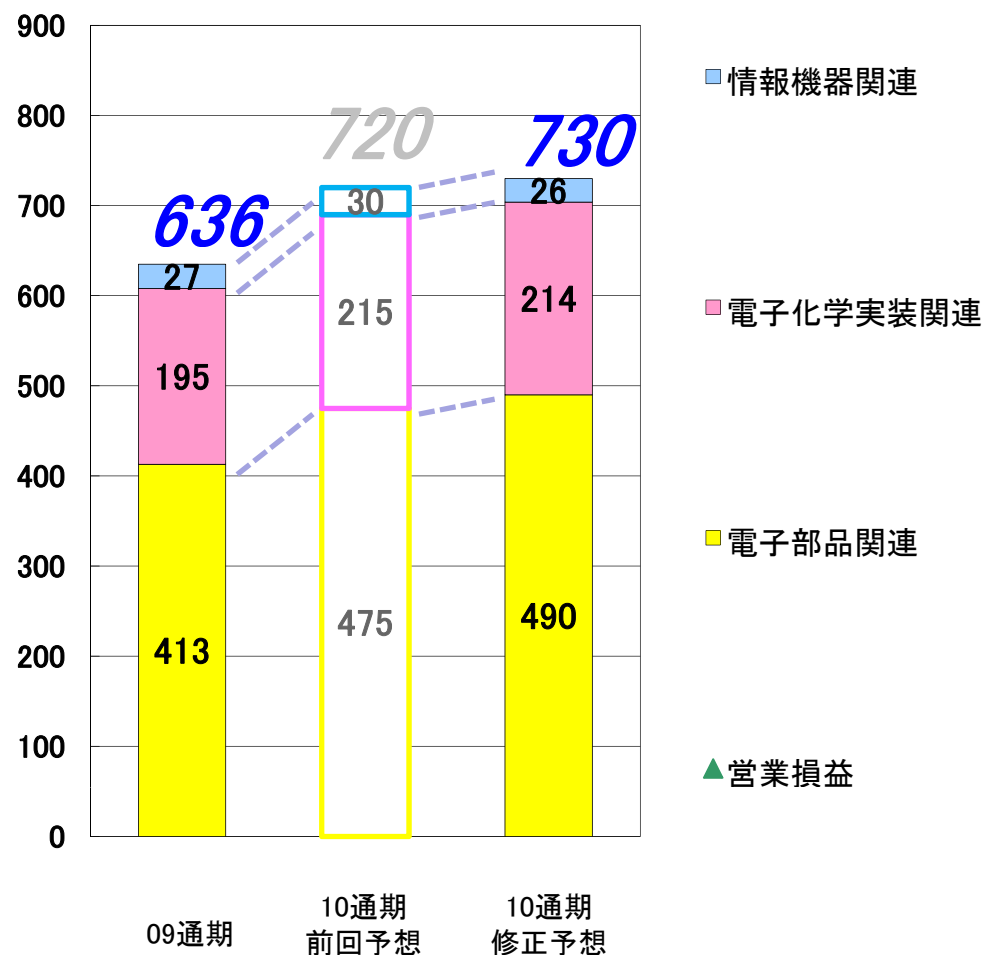
事業部門別売上高・損益の見通し



不透明な市場環境ではあるが電子部品関連・電子化学実装関連を中心に新市場展開・新製品投入で更なる成長を目指す

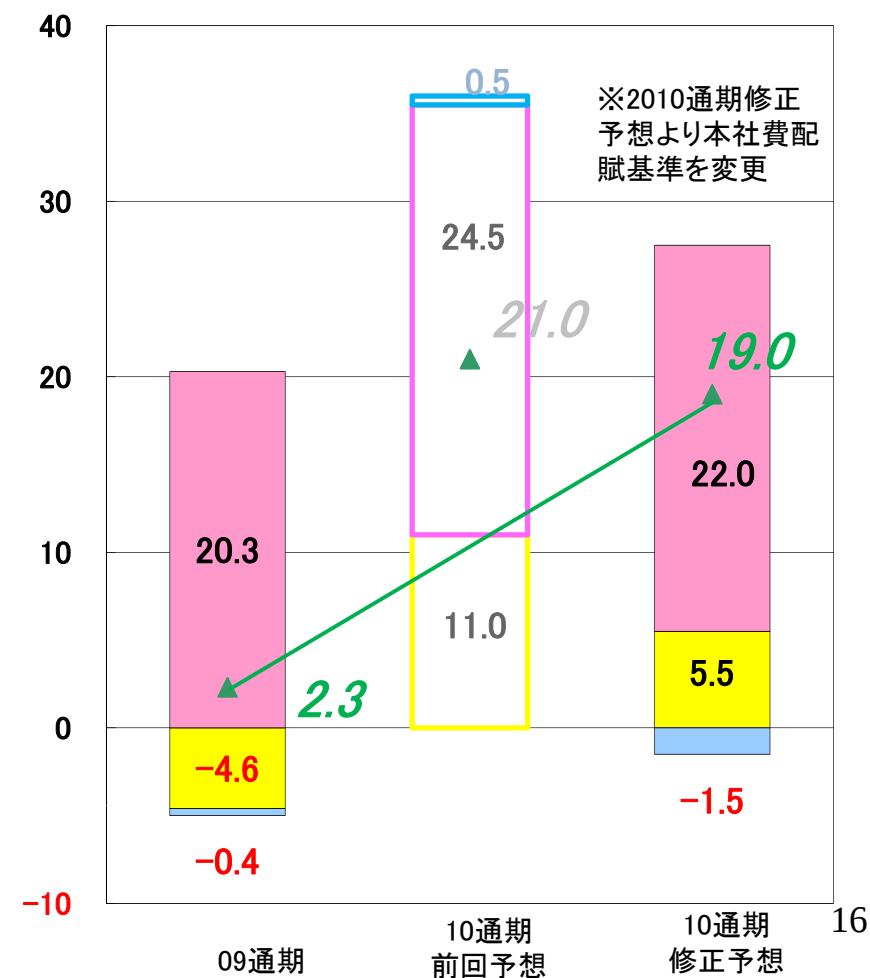
売上高

【億円】



営業損益

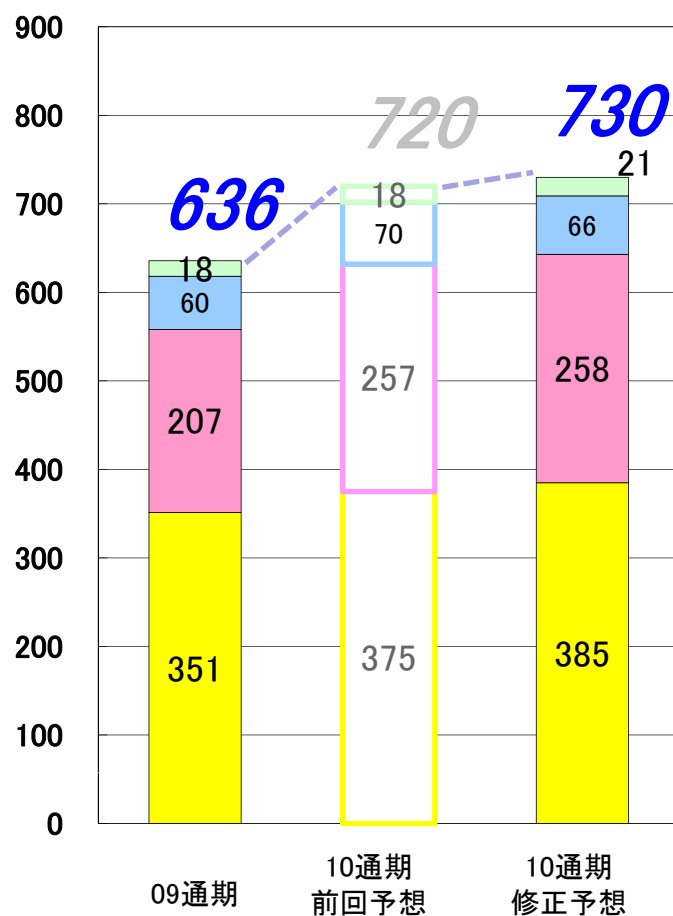
【億円】



アジア展開を中心に新規顧客展開も図り、成長を目指す

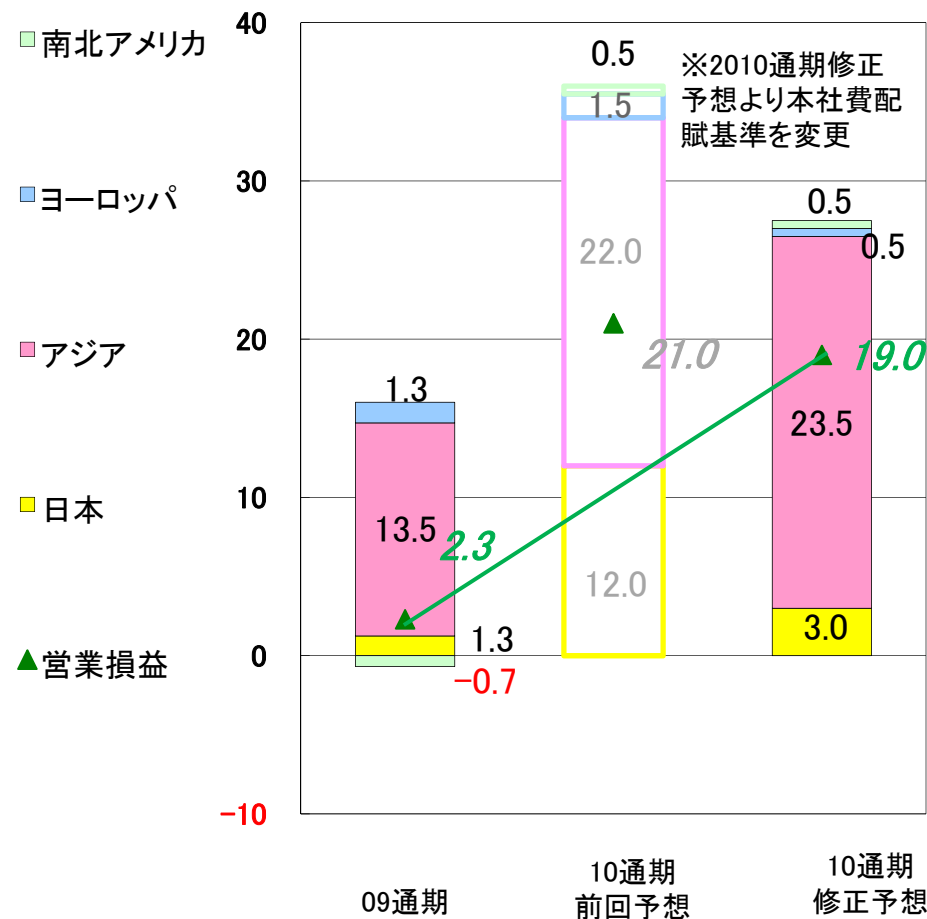
売上高

【億円】



営業損益

【億円】

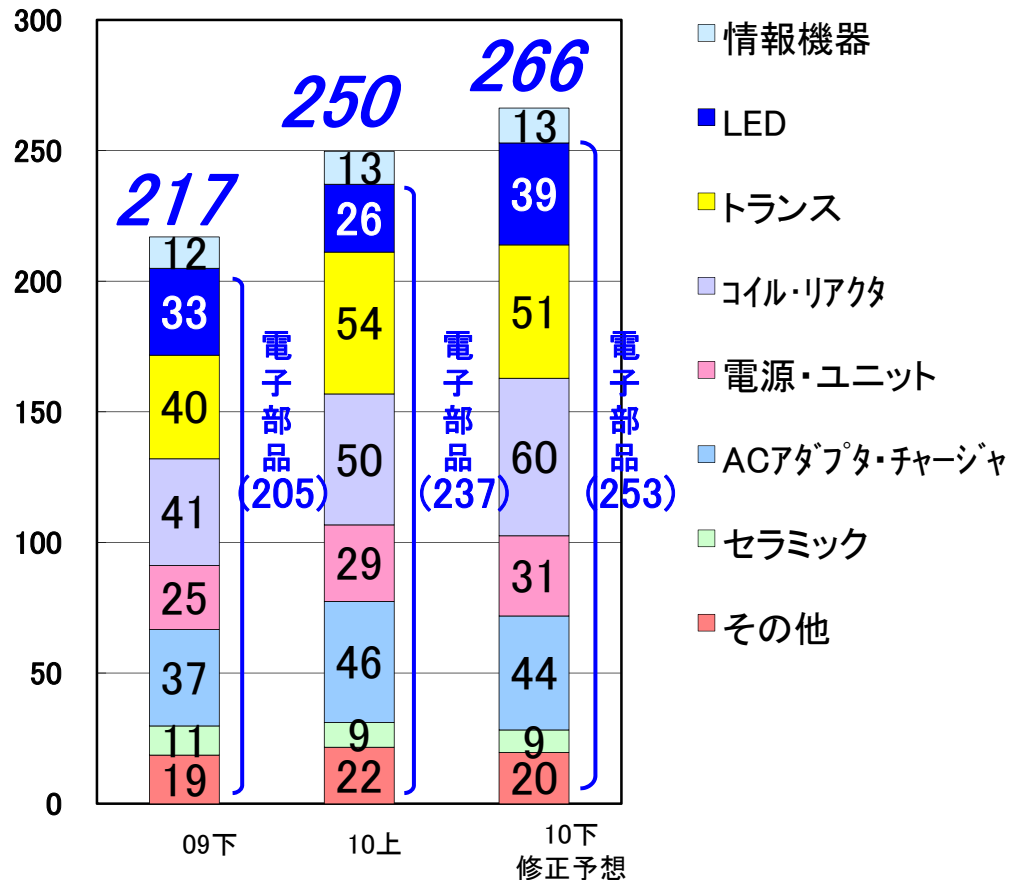


電子部品・情報機器事業の見通し

電子部品：環境・エネルギー関連製品を中心に強化・拡大
 情報機器：放送機器・ワイヤレス機器を中心に新製品投入、
 海外戦略の体制強化を図り、事業回復を目指す

製品別 売上高

【億円】



◆エネルギー・環境市場など
 注目市場へ引き続き拡販図る

環境・エネルギー市場
 例：太陽電池、創エネ



大型トランス
 950x600x825mm
 重量：1.2t



◆次世代フラッグシップモデル音声卓
 市場投入開始

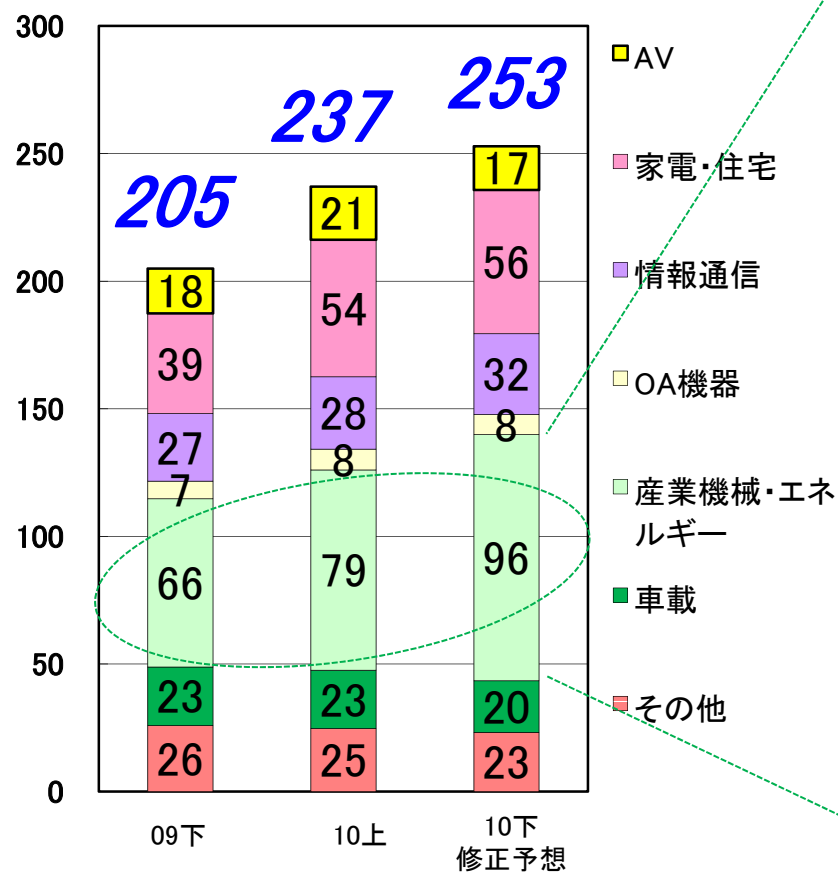


11/17～19
 国際放送機器展
 (InterBEE2010)
 新製品として出展

産業機械・エネルギー関連を中心に成長 新市場・新製品投入でグローバルな拡販を継続

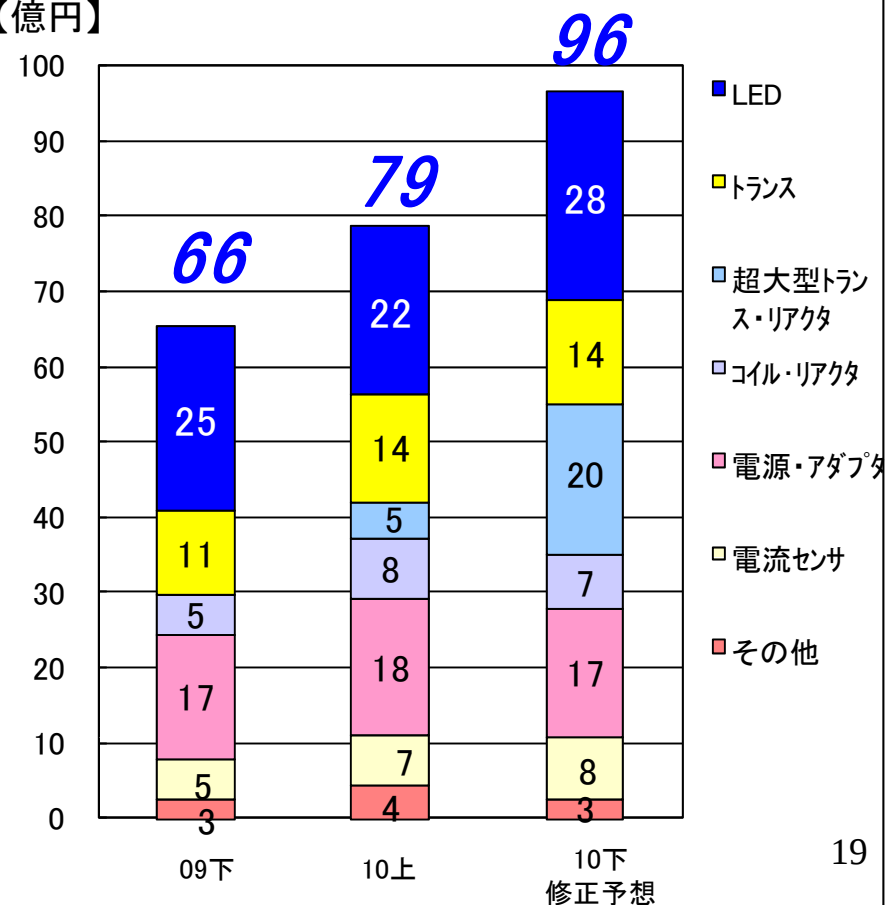
市場別 売上高

【億円】



内訳：産業機器事業 製品別売上

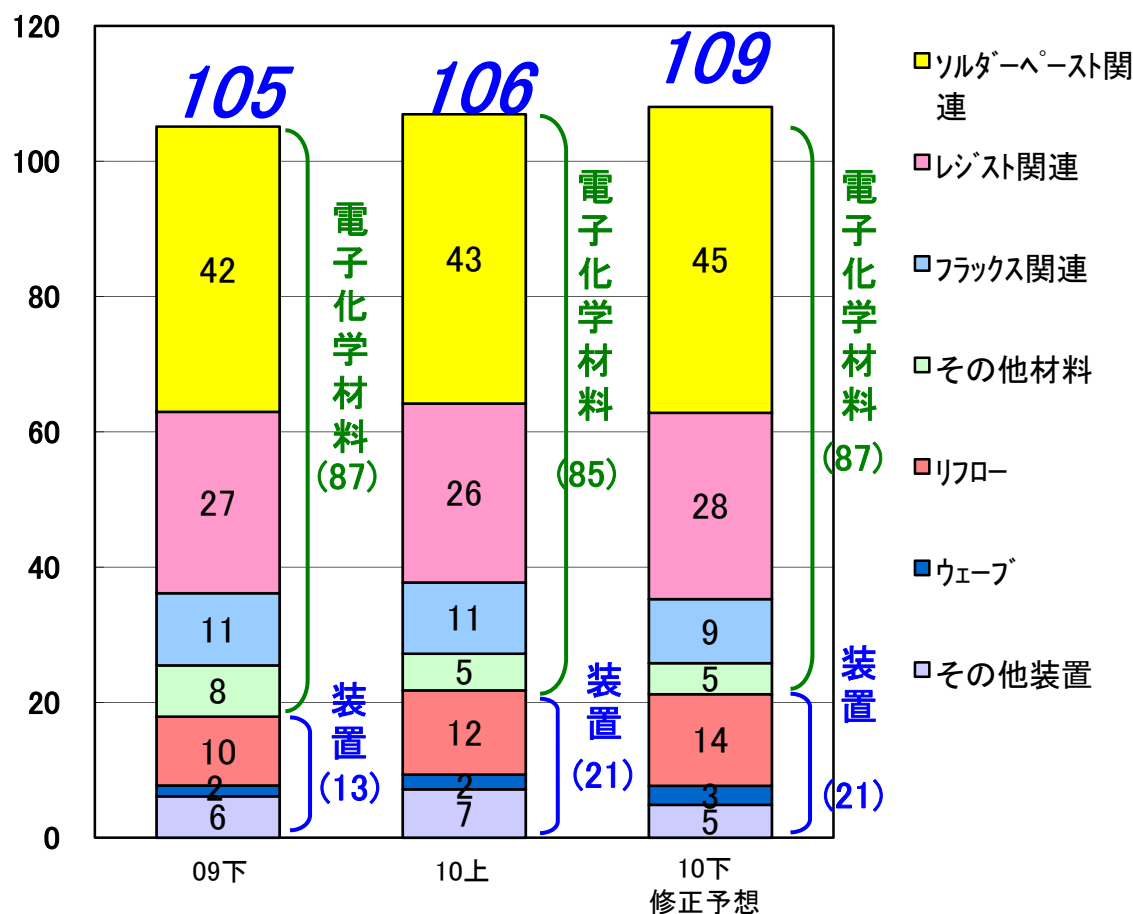
【億円】



電子化学材料:PKG・車載・LED関連等へ新製品投入、更なる拡販へ

製品別 売上高

【億円】



◆パッケージ(FC-CSP)向け
ソルダペーストを市場投入
メモリ関連等、新規市場へ展開

◆フレッシュな基板材料などの 新規材料を市場へ投入

◆需要が高まる中国・アセアン市場
EMSメーカー向け新リフロー投入

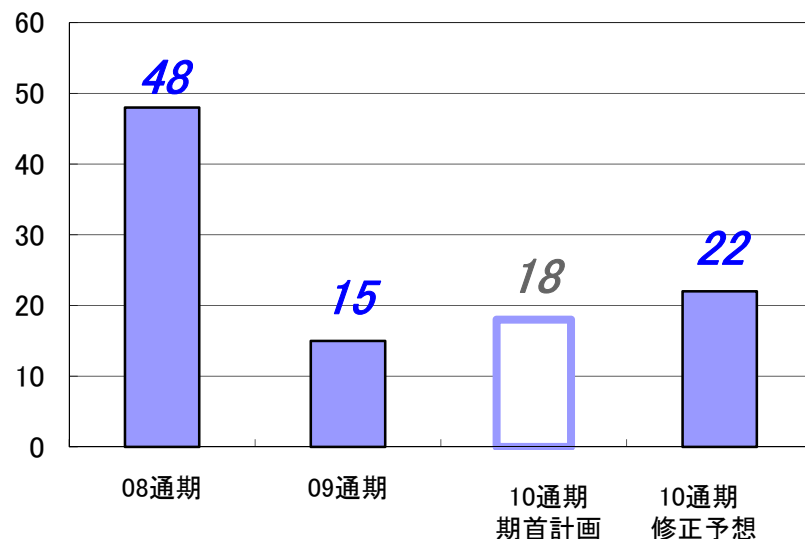
タムラ最大の特徴である
加熱性能は業界最高クラスを継承し、
中国生産によるロープライスを実現



(新製品)
GNV51-648PM

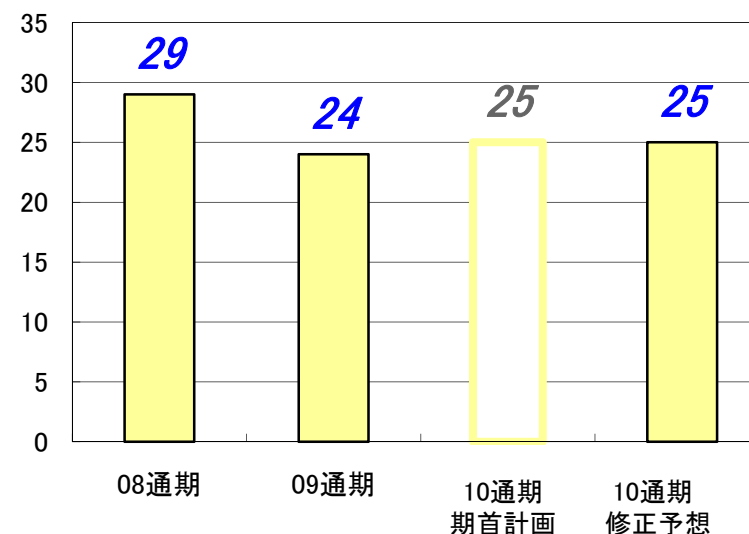
設備投資

【億円】



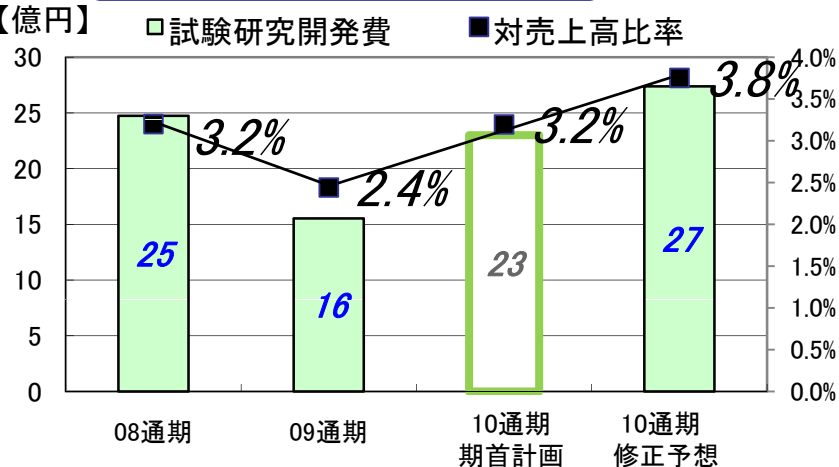
減価償却費

【億円】



研究開発関連費用

【億円】



- ・戦略事業(エネルギー・車載・LED・半導体関連)を中心に設備投資、開発投資増強
- ・LED関連事業 タムラー光波での高輝度LED量産に向け開発スピードアップ
- ・音声卓、デジタルワイヤレス開発強化
- ・電子化学関連 新素材開発へ注力
- ・積極的な先行投資により競争力強化を推進

本資料中の業績予想、見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。